



▶ 学年 小学校 第1学年

▶ 単元 よんでたしかめよう 「うみの かくれんぼ」  
(光村図書 1年 上 かざぐるま)

POINT  
01

### 対話的な学びを引き出す教師の仕掛け

説明的文章「うみの かくれんぼ」は「はまぐり」「たこ」「もくずしよい(かに)」が工夫して身を隠すことを説明した文章である。文章の冒頭で「なにが、どのようにかくれているのでしょうか。」と問いかけており、紹介されている生き物や、その隠れ方に着目して読むことができる。

このような文章の特徴から、教師は本単元におけるねらいを「文章の中の重要な語や文を選び出すこと」とした。本時はたこの隠れ方を説明した文章を扱う。本文章は「1文目:たこの紹介、2文目:たこの特徴、3文目:特徴を生かした隠れ方」の3文で構成されている。教師は教科書に掲載されている、たこが身を隠す様子を表した写真(右下図②)の並び順を入れ替えることで(右下図①)、子どもの解釈とのずれを表出させ、本単元のねらいに迫る対話につなげていきたいと考えた。

POINT  
02

### 対話的な学びの様子

◎ 教師の提示した写真について気付いたことを話し合う。

教師「たこは、どのようにして隠れるか分かりましたか。」

児童A「(2文目を指さして)『からだのいろをかえることができる』と書いてあるから、体の色を変えて隠れるのだと思ったよ。」

児童B「僕も、A君と同じところに線を引いたよ。」

教師「なるほど、体の色を変えるんですね。体の色が変わっていることが教科書の写真からも分かりますね。」(写真をア→イ→ウの順に提示)

児童C「先生、それは違うよ。」

教師「え?教科書の写真ですよ。」

児童D「写真はそうだけど、並べる順番が違うよ。」

(他の児童も口々に同様のことをつぶやく。)

教師「そうかな。アからウでたこの体の色は変わっているのだから、間違いないと思いますが。」

児童C「そうではなくて、ウ→イ→アの順に並べないと、書いてあることと違ってきてしまうよ。」

◎ たこの隠れ方について話し合う。

教師「この文章に合う写真の順番は、①ア→イ→ウか、②ウ→イ→アか、みなさんはどちらだと思いますか。」

児童D「僕は②だと思うよ。」(他の児童も口を揃えて②とつぶやく。)

教師「なぜ②だと思ったのかな。」

児童D「(3文目を指さして)ここに『まわりとおなじいろになって』と書いてあるよ。①だと周りと同じ色になったことにならないよ。」

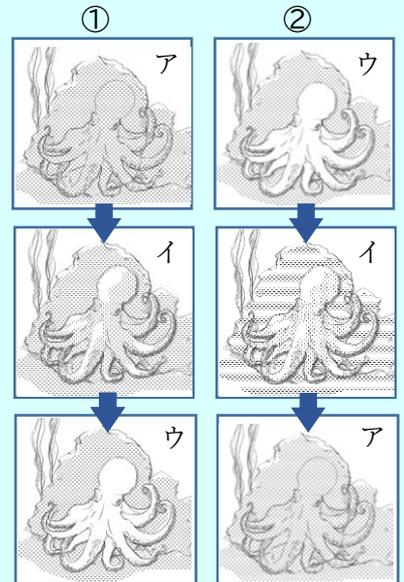
児童A「ほかにも『からだをかくします』と書いてあるよ。②は周りの色と同じになって、体を隠せているよ。」

児童B「**題名も『うみのかくれんぼ』なのだから**、体を隠せていない①は、文章に合わないね。」

(教師「まわりとおなじいろになって からだをかくします」と板書する。

さらに、「からだをかくします」と事前に板書していた題名「うみのかくれんぼ」を線でつなぐ。)

教師「(板書した言葉を指して)この言葉があるから、たこの隠れ方が正しく分かるのですね。長い文章の中から、大事な言葉を見付けることができ、みなさんすばらしいですね。」



#### 「授業改善グランドデザイン」との関連

写真の並び順を入れ替えて提示することで、子どもたちが改めて本文を読み直そうと学び出し、本時のねらい(重要な語や文を選び出す)に迫ることができるようにする。

POINT  
03

### 学びが深まった児童の姿

たこの隠れ方が分かる文について、児童Aは初めに2文目と3文目に傍線を引いていた。しかし、教師が写真の並び順を入れ替えて提示したことで、本文を読み直したり友達の意見を聞いたりし、たこの隠れ方を説明した文として重要な3文目の言葉に着目して自分の考えを述べることができた。

授業を構想する際は、本単元や本時におけるねらいに基づいて具体的な子どもの姿を想定したり、着目させたい言葉を明確にしたりすることが重要である。その上で、児童の実態や教材の特性を踏まえた教師の具体的な働きかけを検討していきたい。